



おらっちゃんの

里山里海通信

2015

春号

## おらっちゃんの里山里海 新しい仲間とともに。

いつもNPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海を応援いただき、ありがとうございます。設立6周年を迎えた私たちの課題は、いかに地域の若い世代に活動に参加していただくかで、昨年度はそのための工夫の年となりました。NPOおらっちゃでは、活動に主体的に参加していた方々に正会員の登録をお願いしています。能登の里山でこんな活動をしたい！という思いを持った方などなたでも参加いただけます。個人の会費はこれまで1万円でしたが、若い世代が参加しやすいよう昨年度から5千円にしました。それが幸いしてか、新たに5名の正会員を迎えることとなりました。30代、40代の会員が増え活動の幅もさらに広がりました。例えば子供たちが里山に入る機会を増やそうと、森のお散歩会サークルが誕生したり、珠洲市の自然観察会を受託し、各学校で観察会を実施するなど、若い会員を中心に多くの実績を残すことができました。世界農業遺産「能登の里山里

海」が本当の意味で地域の宝となり、能登地域がより豊かになるよう今後も様々な活動に取り組んでいきたいと思えます。ぜひ私たちの活動にご参加ください。

### 親子で里山に親しむお散歩会！



今年度から新しい企画「フェアリーリング」がはじまりました。フェアリーリングは豊かな自然の中で子どもと大人がゆったりとした時間を過ごすお散歩サークルです。里山の中で子どもたちが走り回ることが当たり前でなくなってきました時代に、里山を楽しむ新しいきっかけが提供できればと思っています。NPOお

らっちゃが管理する保全林をベースに、能登の各地で実施、アーティストと一緒に演奏などを楽しむ「アーティストインフェアリーリング」も開催しています。私たちは里山を再生し、そこで様々な自然の恵みを体験する活動を地域の皆さんと共有する集うを行ってきました。そして親子で森の中で過ごすことが、こ

んなに楽しいんだということがわかってきました。ここに音楽が加わったら、さらに多くの方達が里山に遊びにきてくれるのではないかと。そう考えて今年度は里山で親子で音楽を楽しむ会を企画しました。昨年度は年間を通してのべ200人以上の方にご参加頂きました。春の山菜採りにはじまり、初夏には棚田の景観を使ったリトミック（音楽教室）や、癒しフェスタというイベントでのネイチャーゲームを楽しみました。秋には見晴らしのよい里山でジェンベ（太鼓）を叩き、地元の炭でこんがり焼いたパンに地元食材をのせたサンドイッチをいただきました。冬は寒くなつてからも雨や雪の中で演奏会を実施しました。最初はどのようなかと正直ドキドキでしたが、冷えた空気の森に響く楽器の音色が気持ちよく、遠くから早起きして来られた方にも「来てよかった」と言っていたことができました。2月から3月にかけては、アーティストの岩井亜希子さんと共に5回連

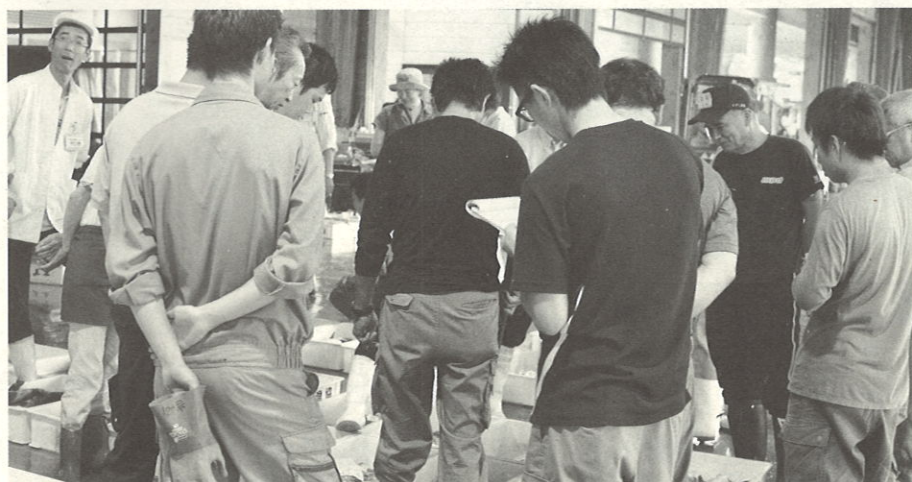
♪ 森の音楽体験 ♪



大人だけのご参加も歓迎です！

続の森の音楽ワークショップを開催します。今後はアートや新しいテクノロジーを使った体験を取り入れた活動もしていきたいと検討しています。

リトミック (lytmiqne)、という言葉葉を聞いたことはあるでしょうか。リトミックは19世紀に生まれた音楽を使って子供の教育を行う手法のことです。森の中でのんびりと過ごしながら音楽に親しむ体験を広げていきたいと考えています。「フェアリーリングのおさんぽ会」というページをフェイスブックに作り、こちらで最新の情報を発信しています。「いいね！」をしていただくと今後の更新情報が届くようになっていきますのでぜひチェックしてみてください。皆様のご参加をお待ちしております。



蛸島漁港で競り見学・お魚捌き

お魚ワークショップ



夏休み親子の里海体験として、珠洲市で徐々に定着してきた感のある、お魚ワークショップ。今回も前野美弥次さんを先生にお迎えし、親子17名を招待して実施いたしました。活動報告はスタッフの中谷なほさんからさせていただきます。

蛸島漁港見学

「おさかなワークショップは蛸島漁港で競りの見学と魚の捌き方を習い、お昼ごはんを食べるイベント。地元で水揚げされる海産物について、もっと親しもう、という主旨で地域の親子や興味のある方を対象に行われている。

珠洲の蛸島漁港に朝8時半集合し、漁港を見学。競りが行われるのは市内では蛸島漁港だけ。そのため市内で揚がった魚は全部ここに集まる。潮の関係で前日に比べ魚の種類が少なかったらしいが、普段見ることのない様子に大人も子どももちよつとドキドキ。競りが始まると仲買人がぐるりと魚を囲み、どんどん値段と買い手が決まっていく。素人の私たちが聞いてもよくわからない。仲買人同士の駆け引きが見えるのもおもしろい。手のやり取りや、あからさまに小声で何か言っていたり。気の弱い人、頭の回転が悪い人には難しい仕事だろう、と想像する。

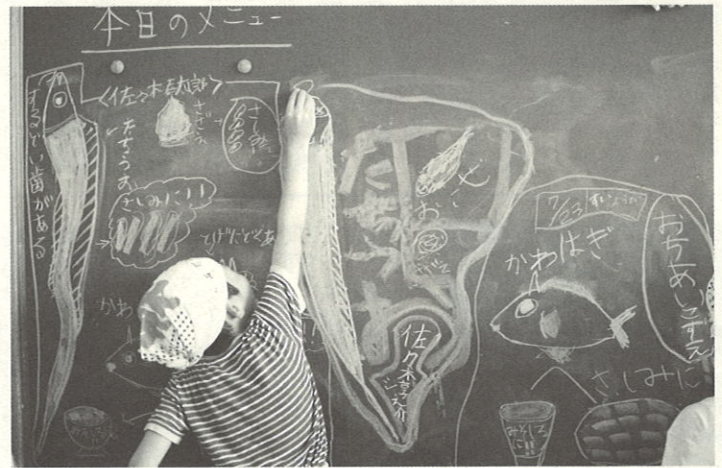
少し離れた場所では箱にどつと入った魚を観察する子どもたち。夏休みの宿題にと、見たものをしっかりとメモする小学生。小さな子は沢山のサザエが入った水槽で水遊びを始めたり。

参加者は大人9名、子どもが8名。能登だけでなく、金沢や夏休みで遊びにやって来たという県外からの親子の参加もあった。このワークショップは扱う魚が毎年違うので、新しいことが習える。リピーターの親子も3組。講師は前野美弥次さん。前野さんは日本おさかなマイスター協会認定のおさかなマイスターで、昨年まで県漁協すず支所の統括参事だった。魚のことや漁業、石川の水産業に関してはなんでも詳しい。前野さんにヒラメとカレイの



見分け方を教わった。魚の腹を手前において、頭が左ならヒラメ、右ならカレイ。さらに肉食のヒラメはカレイに比べて歯が尖っているそう。2種類の違いは何度聞いてもよく忘れるようで、お母さんたちも真剣に聞いていた。

その後は停泊していた漁船で休憩中の漁師の方々とちょっとおしゃべり。子ども達はちよつとだけ船内を覗かせてもらった。喜ぶ子、泣き出す子、観察記録をする子といろいろ。



### 包丁研ぎと魚捌き体験



漁港から金沢大学能登学舎へ移動して講習会の開始。まずは能登町宇出津にある昔ながらの鍛冶屋ふくべ鍛冶の干場勝治さんに包丁の研ぎ方を教わる。持参の包丁を研いでもらって喜ぶ人も。次によいよ魚捌き体験。先ほどの蛸島漁港で選んだカワハギ、タチウオ、サザエ。まずは前野さんが見本。カワハギは皮をはいで、肝入りのお味噌汁。タチウオは背びれを引けば、意外と簡単にとれる。こちらは刺身に。最後にサザエを生のまま取り出す方法を習った。コツは迷わずナイフを入れること。こちらもやっぱり刺身に。子どもたちも挑戦。わかったようながらも、やってみると途中で混乱する。

前野さんはあちこちに呼ばれて、何度も説明。お昼の時間は過ぎてしまったけれど、13時にやっと完成。みんな揃って「いただきます!」。今日のメニューはカワハギ、タチウオ、サザエの刺身三点盛り。お汁はカワハギの肝いりみそ汁。ご飯はサザエ飯。皆で協力して作ったお昼ご飯。お味はいかがだったでしょうか?」



おさかなワークショップの様子を中谷さんに伝えたいいただきました。楽しさが伝わったでしょうか。このおさかなワークショップは大変好評で、地域の若手グループが新たに企画したり、観光客の方を招いて実施するなど、大きな広がりを見せています。珠洲らしいエコツアーになればと思います。

## おらっちゃんの 森づくり運動2014!

6回目を迎えた「おらっちゃんの森づくり運動」。今年も金沢から様々なグループが参加され、総勢120名で150本のクヌギを植林しました。また大きく育ったクヌギの枝下ろし作業も行いました。今年は珠洲市木ノ浦に新たにオープンした「木ノ浦ビレッジ」で参加者とNPOのメンバーが交流しました。里山保全を介した都市農村交流のモデルとして今後も発展させていきたいと思えます。

### 晴天のもと、120名で植林!

おらっちゃんの森づくり運動は今年で6回目を迎えました。今や能登の里山保全の象徴的な活動ともいえるこの植林活動に、今年も多くの方にご参加いただき、無事終了することができました。これまでこの植林イベントは11月の第2週に実施していましたが、能登地域の11月は悪天候が多く、これまでも冷たい雨に濡れながらの作業という年もありました。少しでも良い天候でという思いから今年は10月開催とし、その思いが伝わったのか最高の植林日和となりました。参加者は、総勢120名。金沢からお越しのボランティアの

皆さん、茶道のグループ、星稜大学生、連合石川の皆さん。地元からは日置青年団、大野製炭、宝立小中学校、NPO奥能登日置らい、里山マイスターネットワーク、珠洲市役所と、さまざまな団体の様々な世代が集まったの大イベントとなりました。

植えるだけでなく、

育った木の手入れを。

今年はクヌギの植林と、育ったクヌギの枝下ろしを行いました。平成22年にみんなで植えたクヌギが大きく育っていました。雪で幹が折れることのないように、また草刈りなど作業がしやすいように、余分に伸びた枝を下ろすのだそうです。確かに育ってきたクヌギはもさもさとしていて、植林地もうっそうとしてきた感じます。枝を下ろし、運び出した後は随分すっきりしました。結局クヌギの植林は150本程度、枝下ろしはほとんどのクヌギで行えました。



## 木ノ浦ビレッジで交流会！



作業を終えた後は、今年度新しくできた体験宿泊施設木ノ浦ビレッジにて、懇親会と宿泊です。昨年からは、単に植林活動に参加していただくだけでなく、珠洲の美しい風景と、美しい海の幸山の幸を体験していただくとうと、一泊二日のエコツアーとしました。美味しい料理とお酒、満天の星空、素晴らしい朝焼けの風景、素敵な朝食、皆さん大満足していただけたようです。翌日は、10年前に植えたクヌギの植林地を訪れました。育ったクヌギが一昨年からようやくお茶炭として焼かれ、販売されています。伐採した切り株からは、萌芽（ぼうが）という、切り株の脇から新たな芽が出ていました。この萌芽がわずか1年で人の背丈ほどに伸び、2年目には随分太くなっていました。植物の生命力と、それを上手に人が利用してきた里山の姿を、今も奥能登で目にすることができるとは素晴らしいことだと思えます。今回は、石川県で今年

度開催予定の全国植樹祭で、天皇皇后両陛下がお手植えになられる苗を育てるため、クヌギのドングリ拾いも行いました。その後は、大野製炭工場で大野長一郎さんに木炭を製造する工程をお聞きしました。お茶炭の作り方は一般に使う炭と異なるようで、試行錯誤が続いているようです。大野さんの長年のご苦労をお聞きするなかで、人と自然が上手に付き合っていくには、日々の地道な作業が必要であることを実感させられました。大野さんの生業が続くことで、地域の里山が毎年10haほど整備されることとなります。私たちNPOでは植林のためのボランティアを募るなどで、大野さんの偉業を少しでもお手伝いできればと思えます

## おらつちやの森づくりを これから



私たちの奥能登での小さな取り組みは、少しずつ成果が上がっています。これからどんどん大きく育てていき、能登に人が幸せに暮らせる場を作っていきたいと思えます。今後もおらつちやの森づくり運動は続いていきますので、ぜひ多くの方にご参加いただければと思えます。



### 伝統漁法たこすかし体験

9月27日に、たこすかし体験イベントを実施しました。たこすかしは能登の伝統漁法で、海岸でタコを釣る漁法です。竹竿に疑似餌をつけてタコを釣るといって大変珍しい漁法で、古くからこの地域で行われています。このたこすかしの技を若い世代に引き継ぐために毎年9月にこのイベントを開催しています。今回は大人12名、こども8名が参加、金沢からの参加者も多数でした。今回も講師は地元元たこすかし名人、大瀧信男さんです。捕れるタコはマダコという種類で、秋に海岸近くに産卵に来るため、このような浅い場所でも捕ることができます。この日は14時ごろから海に入り、結局捕れたのは2匹だけ。捕れなかった方は残念でしたが、夕方、みんなタコを茹でてバーベキューをしました。次回はたくさん捕れるといいな。



### やまんばと行く！秋の山菜ワークショップ



10月26日の山菜ワークショップの様子を中谷なほさんが報告します。

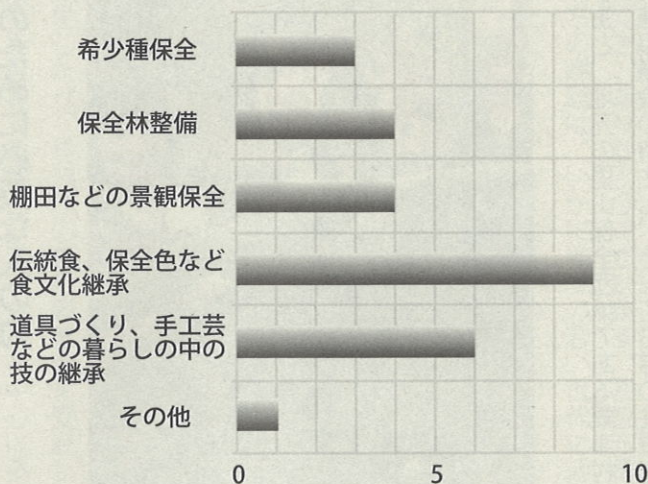
「当日は秋晴れ。朝9時に道の駅狼煙に集合。講師はやまんばこと谷口藤子さん、昨年の穴水町でのワークショップ「山の蔓でかご作り」に続き、2度目となる。講師の谷口さんのほか、娘さんの角草子さんがお手伝いくださいました。参加者は大人12名と子ども、幼児が合わせて7名。いつものように親子での参加も多い。早速、近くの山へ

移動。即、谷口さんの植物紹介が始まる。植物の名まえ、効能、食べかた、採取の時期などメモや写真をとる人も多かったけれど、すべてを追うのが難しいほどのスピードで説明が続く。まるで目に入るすべての植物を知り尽くしているようで、まさに「能登のやまんば」。たまに野草の味を試したり、摘んでみたり。大人も子どももそれぞれのスピードで時間を楽しんだ様子。日置公民館へ移動。調理場では齊藤タカ子さん（谷口さんの妹さん）がお

屋ごはんの準備中。あけびの皮を利用したおかずやおかし、自家製のくず花酢を使用したもの、野生のヤブツルアズキを利用したものなど珍しいものばかり。山歩きで採ったハコベも和え物として一品作る。子どもたちは別室でお汁粉に入れる白玉団子作りを体験。ほとんどの料理は事前に下準備してきていただいたので、あつという間にごつつおう（ごちそう）山菜料理の出来上がり。どれも奥能登の山で採れたものを利用した心づくしのお料理ばかり。やまんばに感心するのは知識が豊富なだけでなく、何でも実際食べてみて、そこに自分なりの工夫やアイデアを加えていること、手間を惜しまないこと。材料は山にたくさんあるけれど、美味しく食べるにはなんと手間と時間がかかること。



## 里山里海に関するどのような活動に興味がありますか？



「身近な所に食べられる物がたくさんあり、知らないことも多いことが多いと実感しました。自分の山もよく見てみようと思った。」

「本当に本当に面白かったです！こんなに身近にこんなに食べられるものがあるなんて！全部は全然覚えられないけど、これから自分で山歩きしながら、今日のこと思い出しながら、少しずつムフフを増やしていきます。やまんばんさんも娘さんもとても元気で素敵なので、私もお山の恵みをいただいて素敵元気な女性になりまーす！」

参加者に里山里海についての興味をお聞きしたところ、やはり食にまつわる内容に興味を持たれている方が多いようです。さらに暮らしの中の技の継承にも高い注目が。今後の活動の指針にしたいと思います。

## 参加者の感想

深い山菜の知識に触れ、地域の若い方々も里山の恵みにさらに興味を持っていただけただけではないでしょうか。次回もさらに発展させていきたいと思えます。講師の谷口藤子さんの山菜の知識をまとめたご本「やまんばん能登を喰らう」はただいま絶賛発売中です！



## 留学生と里山保全体験



今年も金沢大学の留学生達が珠洲を訪れ、里山里海体験をしてくれました。中国、台湾、ベトナム、ブルガリア、チエコなど様々な国からの留学生は、皆10月に日本に来たばかり。2日間の体験ですが都市部の金沢とは違う、奥能登の里山里海を体験し、日本の別の側面が見られたようです。現代日本の課題である、過疎の農村部についても意見を交わしました。

## 飯田港で釣り体験！

昨年も大変好評だった釣り体験は、珠洲市の飯田港で行いました。多くの留学生が釣り初体験とあって、小さなフグやアジばかりでしたが、とても喜んでくれました。釣り講師の奥野さんがアオリイカを釣ってくれ、堤防によってきたマダコも捕れたので、おかげも十分でした。晩ご飯は能登学舎で釣った魚を捌いて、バーベキューをしました。

2日目は、珠洲市三崎町粟津の琴江院というお寺の竹林整備をお手伝いしました。日本全国で問題となっている竹林の放置による荒廃と拡大は、珠洲でも例外ではありません。モウソウチクは中国原産石川県には18世紀中頃入ってきたそうです。成長が早く食用から加工品の資材などに使え、つい最近まで大切に利用されてきました。しかし今は放置され竹林は荒れ果て、外へ外へと広がり他の里山へ侵入しています。欧州の留学生は竹を見るのも初めてだったようですが、このように里山が荒れてしまっていることも初めて知ったようです。

里山のために必要な人の力



留学生と、地元の里山保全団体である粟津村おこし推進協議会の皆さん、そしてお寺の住職さんと、竹林整備を行いました。高台の竹林のため、皆で列を作りバケツリレー方式で切った竹を運び出しました。竹は軽く女性でも運び出せます。2時間ほどで予定していた作業を終えることができました。僻地の里山を維持していくため、都会から入る呼んで作業をしよう活動が盛んになっています。色々なご意見があると思いますが、私たちは参加者に少しでもプラスになるよう活動を通じてなにか学ぶことを入れる努力をしています。

外部の方から、里山への共感の言葉を聞くことは、地域にとっては里山を守るモチベーションにつながります。交流を通じて地域や地球のことを考えるきっかけとしたいです。

編集後記

今年度も多様な主体の方々とともに、能登の里山里海を守り伝える活動が実施できました。特に私たちの最も大きな活動であるおらっちゃんの森づくり運動では、金沢から多数のボランティアが参加され、1泊2日のエコツアーとして発展しつつあります。昨今盛んに叫ばれる都市と農村の交流が奥能登で実現できていることを大変うれしく思っています。

「能登の里山里海」伝承ワークショップでは、たくさんの親子に参加いただきました。今年3回目となるおさかなワークショップは大変好評で、観光客向けや地域の若い男性向けなど、様々なニーズに合わせたイベントに発展しています。また、親子で里山で遊ぶ「森のお散歩会」もスタートしました。子供たちが里山で楽しく過ごせる環境作りや、里山で様々な体験を指導するリーダー養成も実施し、担い手を増やしました。子どもが少なくなってきた地域ですが、能登の美しい里山里海で元気に遊ぶ子供たちの姿が絶えないように、楽しい活動を実施していければと思います。これからもどうぞよろしく願いいたします。



入会のご案内

おらっちゃんの活動に参加しませんか？

NPO おらっちゃでは会員を募集しています。正会員と賛助会員の2種類あり、正会員は運営にも携わることができます。賛助会員は活動を支援していただく方々です。能登を元気にする活動にぜひ参加してください。

個人正会員 年会費 5,000円 団体正会員 年会費 30,000円  
 個人賛助会員 年会費1口 1,000円 団体賛助会員 年会費1口 5,000円

活動をご支援いただく方々からのご寄付も受け付けております。

振込先：ゆうちょ銀行

加入者名 特定非営利活動法人能登半島おらっちゃんの

記号・番号 00710-9-45126

金融機関コード 9900 店番 079

預金種目 当座 店名 ○七九店(ゼロナナキユウ店) 口座番号 0045126

〒927-1462 珠洲市三崎町小泊 33-7 金沢大学能登学舎 1F

TEL/FAX: 0768-88-2528 Mail: info@satoyama-satoumi.com

Homepage: http://www.satoyama-satoumi.com



理事長 加藤 秀夫



地球環境基金

独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて制作しました。